

施策の紹介

二〇〇一年は「ボランティア国際年」です。世界中でボランティア活動の普及・啓発が行われます。社会のニーズが多様化する中で、新しい世紀の最初の年が「ボランティア国際年」となったことは非常に大きな意味を持ちます。ここでは、「ボランティア国際年」の意義と目的について触れたいと思います。

「ボランティア国際年」の意義と目的

「ボランティア国際年」の制定

平成九年十一月、第五十二回国際連合総会において、我が国の提案に基づいて、百二十二か国共同提唱国を得て、二〇〇一年を「ボランティア国際年」とすることを宣言する決議が採択されました。

「ボランティア活動に対する理解を深めること」(recognition)、ボランティア活動への参加を容易にすること(facilitation)、ボランティア活動のネットワーク化(networking)、ボランティア活動を促進する」と(promotion)の目的で、二〇〇一年の「ボランティア国際年」は、世界中の多くの人々がボランティア活動に対する関心が飛躍的に高まっています。

部の機関として、国連ボランティア計画(UNV)が国連決議において指定されています。

背景

現在、世界中の多くの人々が、自国内、国外を問わず、福祉、教育、環境、開発及び人権擁護など、社会の各分野において、ボランティアとして活躍しており、ボランティアは社会を支える不可欠な存在として認められています。

阪神・淡路大震災及び平成九年のナホトカ号重油流出事故などに際して、多くのボランティアの方が活躍し、国民のボランティアに対する関心が飛躍的に高まっています。国内におけるボランティア活動に対する関心と理解を一層高め、ボランティア活動を活性化するため、さらに環境整備を進めていく必要があります。

取組

決議では、「ボランティア国際の準備、実施、フォローアップのための中心的役割を果たす国連内

我が国においては、平成七年の



国際年のロゴマーク



際連合において制定された国際的なキヤンペーンであり、二〇〇一年に向けて世界各地でボランティア支援のための活動が推進されることが期待されています。我が国も、この国際年の提唱国として、ボランティア活動を一層推進するため、市民社会及び行政では、次のような体制整備を行っています。

民間の取組

国連ボランティア計画が、国内の主なボランティア団体へ「ボランティア国際年」のための国内委員会を設置することを呼びかけたことにより、平成十一年十月十二日に「二〇〇一年ボランティア国際年推進協議会」が発足しました。今後、「ボランティア国際年」に向けた様々な取組が展開される予定です。

政府の取組

日本政府においては、平成十一年五月二十四日にボランティア国際年に関する関係省庁等連絡会議を設置し、経済企画庁がその取り

まとめを行っています。

なお、構成省庁等は次のとおりです。

総理府・警察庁・総務庁・経済企画庁・環境庁・国土庁・法務省・外務省・大蔵省・文部省・厚生省・農林水産省・通商産業省・運輸省・郵政省・労働省・建設省・自治省・人事院

国連決議の概要

国連決議の概要是、次のとおりです。

「二〇〇一年を「ボランティア国際年」とする。」

各国政府、国連諸機関、国際的なボランティア組織及びNGO（非政府組織）、その他地域社会に根ざした市民団体に対し、「ボランティア国際年」の準備と祝賀のために、ボランティア

への理解を深め、参加を容易にし、横のつながりを強化し、活動を促進するための方法を互いに協力し検討するように依頼する。

個人や団体が各自の時間を利

用してボランティアとして参加

し、恵まれない立場にある人々のために各自の資源、技能を提

務に加えて、本件国際年の推進組織として、国連システム諸機

関の協力の下、本年の準備と、実施、フォローアップを行う。

また、「ボランティア国際年」の準備と実施に関しては、特に国連ボランティアが各国政府と

国際、国内ボランティア、NGOとの緊密な協力とパートナー

シップのプロセスを継続することを奨励する。

政策決定機関及び国連システムの関係機関は、それぞれの機

関が独自の機能を有する分野に

おいて、一九九八年から二〇〇一年までの間に実施する既存の

あるいは新規のプログラムにつ

いては、本年の趣旨と目的を考えるよう特に配慮し、また、

本年の趣旨がすべての国と人々に行きわたるように本年のフォローアップを行うよう要請す

る。

国際年のロゴマーク

国連のロゴであるオリーブの葉の中に入間をかたどった三つのVを配し、ボランティアが活動している様子を表しています。

ドイツ在住のアルゼンチン人グラフィックデザイナー、サンドラ・ロハス氏がボランティアで制作しました。

（経済企画庁）